

【第2回】9月24日（日）13:00～15:45

【司会】
BSN新潟放送
アナウンサー

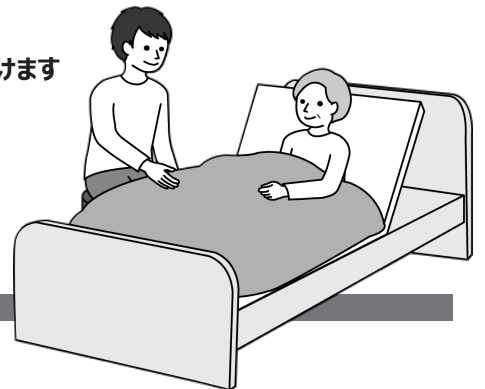
映画「うちげでいきたい」から 自分の最期の迎え方を考える

鳥取県大山町が舞台の「在宅看取り」映画が全国各地で上映されています。この映画は、鳥取大学医学部 孫 大輔医師が自主制作した「在宅看取り」の内容ですが、主に家族の物語を主軸にストーリーが進行されています。映画を観てさまざまな立場の人が、自分の人生を考えたり、気づきを得たりする機会となります。病気になる前から自分らしい最期の迎え方について、大切な人と話し合っておくことが望まれています。上映後、新潟での在宅看取りについて話を聞きながら、自分らしい最期の迎え方を考えてみませんか。

前半：孫 大輔医師（監督）の「うちげでいきたい」上映

後半：在宅医による新潟での在宅看取りに関する話から、自分らしい最期の迎え方を考えていきましょう。

- ◆会場：新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部 ◆定員：50名
- ◆講座申込締切：9月11日（月） ◆対象：どなたでもご参加いただけます
- ◆保育サービス定員：5名 [申込締切：9月6日（水）]
- ◆受講料：無料（助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団）



【講師】 斎藤 忠雄（斎藤内科クリニック 院長）

在宅ホスピス医医学博士。1954年福島県生まれ。新潟大学医学部、新潟大学大学院を卒業後、米アラバマ大学バーミンハム校客員助教授、1994年、新潟市に斎藤内科クリニックを開設。以後、一人暮らしの方や老老世帯、認知症、そしてがん終末期の方でもいつまでも住み慣れた地域で過ごせるようにと、小規模多機能型居宅介護ケアステーションるびなす、在宅ホスピスケアを提供するための訪問看護ステーションるびなす等を開設し地域医療に取り組んでいる。

【コーディネーター】 佐々木 祐子（新潟青陵大学大学院 看護学研究科 エンド・オブ・ライフ・ケア領域 教授）

新潟県生まれ。北里大学看護学部を卒業後、臨床で多くの人の看取りを経験してきた。東洋英和女学院大学大学院で死生学を学び、現在は日本人の看取りや身内と死別した家族の悲嘆を支援するグリーフケアをテーマに研究を行っている。2018年より現職。人の生と死、成人看護学などの授業を担当し、ケアリングを用いた看護教育に取り組んでいる。

申込方法等は、本学のホームページ
（右記QRコード）をご確認ください

